

プリント・コミュニケーションだけで勝負できるか 他のコミュニケーションと連動させてこそ効果を発揮 ● やまびこ会主宰・山田 暁生

教師ができる 他のコミュニケーション

学校教育を充実発展させていくために子ども・保護者・教師間のコミュニケーションに力を入れることはとても大事なことだ。大きな力を発揮する。

こう考えた私は1960年に教師生活の第一歩を踏み出してすぐ、その活動を学級担任として始めました。

とは言え、当時担任としてできることと言えば、ガリ版印刷で日常的に学級通信を作つて生徒の手を通じて家庭に届けるか、たまに保護者会を開くぐらいしかできませんでした。電話のある家庭もクラスで1割にも満たないような社会状況だったので。

ハード面では、当時と比べると現代はコミュニケーション条件が十分過ぎるほど整っており、あとは教師の「やる気」と「操作技術」と「活用のアイデア」次第です。コミュニケ

ーションを教育に生かし充実させたいと意欲し行動する先生にとっては、なんと恵まれた時代でしょうか。伝達もスピーディーになり、実践が楽しい時代です。

パソコンあり。ケイタイあり。ほぼ100パーセント設置されている家庭電話。多機能の印刷機あり。至れり尽くせりの現状です。謄写版原紙にガリガリと指に力を入れて鉄筆で一字一字文字を刻み、ギョコ、ギョコと謄写版で一枚一枚刷っていた50年前の私の新任教師時代と比べると、隔世の感があります。

教育を充実させるキーは ツウウェイ・コミュニケーション

一方的に伝達することを目的にするなら、相手が何人いようがインターネットを使ってメールで瞬時に伝えることができる時代になっています。プリントして相手に届ければ「伝える」という目的だけは果たせます。

しかし、ここには落とし穴があって、このコミュニケーションは「こちらから相手に伝える」という役割が果たせたとしても、本当に伝わって相手の心にまで届いているのかと言うと、それは定かではありません。相手にとって「伝えられているとは知らなかった」ということが往々にして起きうるのです。

プリントでコミュニケーションを図っている先生方はこの点を確認しながら実践していく必要があります。

ある先生は保護者が読んでくれたかどうかを確かめるために「読みました」と返事を取つたり、「読んだ確認印」を提出させたりしていますが、これだけでは保護者や子どもは「読まれる立場」となり、担任は「読ませる立場」となって、心の通い合いまで到達できずに終わりがかねません。

なぜ、ツウウェイ・コミュニケーションが大切なのか。それは心の通い合いがあつてこそ教育の充実が期待でき、図れるからです。

